

施策項目 2 2 本道の地域特性等を踏まえた特色ある高校づくり

【評価結果】

【担当課：高校教育課(ICT教育推進課)】



担当課HP

総合評価	計画どおり
-------------	--------------

定量評価 [指標]	A
-----------	---

指標	評点	(a)	(b)	(c)	(d)
	評価数	1	1	0	0
	d評価となった指標				

定性評価 [施策]	進展あり
------------------	-------------

本道では人口減少や少子高齢化が進み、地域創生が喫緊の課題となる中、地域と連携・協働した魅力ある高校づくりの推進がこれまで以上に求められていることから、学校と地域が連携し、地域の教育資源を積極的に活用した特色ある教育活動に取り組んでいる。令和3年4月には「北海道高等学校遠隔授業配信センター」を開設し、地域連携特例校や離島に所在する高校に対し、生徒の興味・関心や進路希望に対応した教科・科目の配信を開始した。また、社会情勢や高校を取り巻く教育環境の変化、地域の抱えている今日的な教育課題等に対応するため「これからの高校づくりに関する指針」に基づく取組の検証を行い、指針の見直しを行うこととするなど、施策の進展が認められる。

【施策の推進状況】

【P】・・・「Plan 令和3年度の主な施策」 【D】・・・「Do 主な取組の状況」
 【C】・・・「Check 施策の課題」 【A】・・・「Action 今後の方向」

《課題・背景》	(1) 地域の特性を生かした教育活動の推進 ・広域分散型の本道においては、人口減少が急激に進む中、地域の教育機能の維持向上を図ることが必要 (2) 活力と魅力のある高校づくりの推進 ・中学校卒業生数の減少傾向や地域の実情などを踏まえた適切な高校配置を進めるとともに、生徒の多様な興味・関心、進路希望等に対応した魅力ある学校づくりが必要
---------	--

(1) 地域の特性を生かした教育活動の推進	
①地域の教育資源や学習環境を活用した特色ある教育課程の編成・実施の促進 ②高等学校が地域の自治体や産業界等と連携・協働してコンソーシアムを構築し、探究的な学びを通じて地域におけるキャリア教育の推進 ③他の学校への通学が困難な地域にある小規模校を地域連携特例校に位置づけ、協力校や北海道高等学校遠隔授業配信センターと連携した教育活動などによる教育環境の充実	①・学校教育指導訪問において、「総合的な探究の時間の実施状況に係るチェックリスト」に基づいた協議 ・地域の教材や学習環境の活用事例を「高等学校教育課程編成・実施の手引」に掲載し、教育課程研等で周知及び指導・助言 ②「北海道CLASSプロジェクト(地学協働活動推進実証業)」の実施(道内4圏域推進校、連携校を各1校指定) ・地域、産業界等と連携したコンソーシアムの構築 ・地域コーディネーターのフォローアップ研修を実施 ③地域連携特例校の教育活動充実のための取組 ・特例校・協力校間における連携の実施(25組48校) ・相互に教員を派遣する道立学校間連携事業の取組(6組12校) ・北海道高等学校遠隔授業配信センターからの遠隔授業配信(地域連携特例校25校 離島の高校2校へ8教科21科目)
[P]	[D]
①「目標を実現するにふさわしい探究課題」についての理解が図られるよう、学校教育指導訪問や教育課程研究協議会等において協議を継続 ・「STEAM教育推進事業」において、地域課題の解決につながる探究活動の実施、成果の全道への普及 ②「総合的な探究の時間」を中核とした教科等横断的な視点によるカリキュラム・マネジメントの確立や授業改善等について、指導主事による指導助言の継続のほか、各種研修会への参加の促進 ③特例校・協力校間のほか、特例校間の連携や協力校以外の学校との連携を図るとともに、北海道高等学校遠隔授業配信センターからの遠隔授業配信を拡充	①職業調べなどの進路学習に偏っているため、探究の見方・考え方を働かせられるよう、地域や学校の特色に応じた課題などの設定が必要 ②社会の急激な変化や、産業構造の変化などに対応できる資質・能力を身に付けた人材育成のため、地域と学校が一体となった教育課程の改善・充実が必要 ③小規模校の教育環境の維持充実のため、学校間連携や遠隔授業の充実が必要
[A]	[C]
(2) 活力と魅力のある高校づくりの推進	
①高校進学希望者数に合った定員確保を基本とし、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るための高校配置計画の策定 ②学校や地域の実情に応じた多様なタイプの高校づくりの推進及び普及啓発 ③道立高校の学科の在り方に関する検討	①公立高等学校配置計画の策定(3年間の計画(R4~R6)及びその後の4年間の見通し(R7~R10)) ②多様なタイプの高校づくりの推進 ・多様なタイプの高校の導入や方向性の検討 ・多様なタイプの高校を紹介するパンフレットの配付 ・道教委Webページに掲載する学校紹介ビデオの更新 ③庁内ワーキンググループ(高校教育検討委員会)における検討の実施 ①・②・③ ・「高校教育に関するアンケート」、「多様なタイプの高校等に関するアンケート」の実施 ・「北海道教育推進会議高等学校専門部会」の設置 ・「これからの高校づくりに関する指針」検証結果報告書の作成
[P]	[D]
①生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科が適切な配置となるよう検討 ②多様なタイプの高校の導入や方向性の検討 ③本道特有の課題を踏まえた学科の在り方について方向性を検討 ①・②・③ 「これからの高校づくりに関する指針」の見直し	①中学校卒業生数の減少に伴い、高校の小規模化が進んでおり、教育環境の整備が必要 ①・②・③ 国の動向や、アンケート結果を踏まえるとともに「北海道教育推進会議高等学校専門部会」において意見を伺いながら、今後の高校づくりの方向性の検討が必要
[A]	[C]

[指標の状況及び評価]

指標の内容	基準値	目標値（上段）						進捗率	評価	出典 (調査名等)	実施主体	調査期 日又は 調査対 象期間	指標の 対象
		実績値（下段）											
		(H29)	(H30)	(R元)	(R2)	(R3)	(R4)						
① 総合的な学習の時間における地域の教材や学習環境の活用の割合(%) (全日制)	(H29)		92.0	94.0	96.0	98.0	100	96.7%	b	管内公立高等学校状況調査	道教委	R3. 4. 1~ R4. 3. 31	道立高等学校
	89.6	89.6	71.4	76.4	82.5	94.8							
② 総合学科又は、単位制の高等学校を設置している通学区域の割合(%)	(H29)		94.7	100	100	100	100	100%	a	道教委による調べ	道教委	R3年度	道立高等学校
	94.7	94.7	94.7	100	100	100							
評価結果	(a) 指標数	(b) 指標数	(c) 指標数	(d) 指標数	定量評価		A	d評価に対する今後の取組					
	1	1	0	0									